

第2回 大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会議事録

日 時 令和5年11月29日(水)

13:30～14:10

場 所 県庁別館8階第1会議室CD

出席者 出席者名簿のとおり

1 議事

- (1) 被災等の状況について
- (2) 運行再開に要する費用等について
- (3) 川根本町における大井川鐵道の必要性
- (4) その他

2 会議の内容(議事要旨)

【地域交通課長 あいさつ】

- 3月22日に第1回検討会を開催し、これまで調査や打合せを重ねてきた。
- 6月の台風2号の影響やトンネルの変状の確認などを行い、想定より時間を要することとなった。
- 本日の検討会では、被災状況等、運行再開に要する費用等、川根本町における大井川鐵道の必要性について確認及び共有を行う。
- ぜひ皆様のご協力をお願いしたい。

【議事1 被災等の状況について】

事務局より資料の説明

(事務局)

- 本線の川根温泉笹間渡駅から千頭駅までは運休中。
- 被災箇所は24箇所、下泉駅から田野口駅間に集中。
- 台風による被災だけでなく、施設の老朽化も見られる。

【議事2 運行再開に要する費用等について】

事務局より資料の説明

(事務局)

- 鉄道・運輸機構と鉄道総合技術研究所の助言を元に大井川鐵道が算出した運行再開に要する費用等は約22億円となった。
- 台風15号による災害復旧は4.8億円、経年劣化したトンネルや軌道の機能回復で17.3億円となった。

○既存の補助要綱に基づき県が試算した結果、大井川鐵道の負担は8.4億円以上となると想定。

【議事3 川根本町における大井川鐵道の必要性】

川根本町より資料の説明

(川根本町)

○町民や町内観光関係者、商工業者や沿線の関係団体の方々からの聴き取り、そして観光に関するデータから、大井川流域をはじめとした県中部地域の活性化のために大井川鐵道本線の全線復旧が必要。主な理由は以下のとおり。

- (1) 大井川鐵道は静岡県中部地域における重要な観光資源
- (2) 電車やS L、汽笛の音などは、沿線住民の日常生活の一部
- (3) 運行休止に伴う観光客の大幅な減少により、町内観光関係者は経済的に大きな打撃を受けており、観光交流等を含めた経済成長のけん引に大井川鐵道は不可欠

【議事4 その他】

事務局より資料の説明

(事務局)

- 被災を受け、電車やS Lは川根温泉笹間渡駅までの運行となった。
- トーマス号は、家山駅まで運行するものの、降車できずに新金谷駅まで戻る形となった。
- 川根本町内循環の町営バスが鉄道駅もしくは鉄道駅近くを停車しながら、島田市にある家山駅まで運行する形となった。
- 新金谷駅と井川線の千頭駅は、令和4年度上期より令和5年度上期の方が乗降客数が増え、コロナ前の令和元年度上期と比較しても、新金谷駅で84%、井川線の千頭駅が70%と鉄道利用者が戻りつつある。
- 本線の千頭駅はバスのみとなったことから、令和4年度上期より令和5年度上期は乗降客数が大きく減少し、公共交通機関を利用して千頭駅まで訪問される方が減少している。

【全体を通して意見等】

(会長)

- 運行再開に必要な費用を報告することができた。
- 全線の運行再開に向けて、必要となる費用の調達方法や役割分担につきまして、皆さんと今後検討を進めていきたいが、よろしいか。(異議なし)